

まえがき

教師が自らの実践を変えようとするのは、どんなときなのか。なぜ、どのようにして、教師は実践を改善しているのか。私たちは大正新教育の実践の中に、この問いに答える手がかりを見出したいと考えている。

学校教育の質を向上させるために現在も進められている制度改革の成否は、教師の自己改革を促せるか否かにかかっているといっても過言ではない。子どもたちに「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められている今こそ、実践の主体である教師に寄り添った支援策を講じる必要がある。

周知のように、大正新教育運動は多くの教師が実践改革を志向し、さまざまな形でそれに取り組んだ草の根的な教育改造運動である。私たちは、この運動で展開された実践をカリキュラムの視点から捉え直すことによって、教師の能力形成の契機や過程を明らかにすることを試みたい。これまでの大正新教育研究は、教育運動史、教育方法史、教育評価史、教育経営史、教育思想史などに細分化され、それぞれの専門的な視点や方法によって多様な実践事例の史実を解明し、評価してきた。大正新教育の現代的意義だけでなく、教育史的意義を構造的に捉えるためにも、今後はこうした研究成果の蓄積をふまえながら、実践主体やその協同に注目したカリキュラム史の研究を進める必要があると考えている。

ここでいう「カリキュラム史」とは、「実践史」よりも広い概念であり、教師の「意識」を含む（あるときは無意図的な作用さえ含み込む）営みの歴史である。教育実践は日々生みだされ、そして消え去る運命にある。後に残されるものは、教科課程、教科書、時間割、教案（学習指導案）など、文字として書き記されたものである。そうした

記録から実際の授業の生動性を読みとることは難しい。しかし、まれに第三者による授業記録や教師自身の回顧録が残されていることがある。あるいは、校内誌や教育雑誌に当時の実践報告やその反省、視察記などが掲載されていることもある。残存する資料から実践の痕跡を博捜して教師の内面の変化を辿り、彼らの実践的営為と重ねること、教師たちのカリキュラム実践に迫ることができないだろうか。そして、彼らの実践を思想的視界に位置づけることはできないだろうか。こうした問題意識が私たちを大正新教育研究に向かわせる根底にある。

本書は、大正新教育の実践史と思想史を架橋する試みでもある。従来の教育実践史は、残された文字の記録から実践を素描してきた。従来の教育思想史は、実践を主導した指導者や思想家たちの哲学・思想に注目してきた。しかし、これまでの教育実践史研究において注目されてきたコース・オブ・スタディー、教科書、教室（教育空間）、時間割、教案などを分析するだけでは、教育実践の生動の実質に迫ることはできない。より多くの事例研究の中で教師の言動を分析し、彼らの意図や意識、そしてその後景をなす教育思想を明らかにする必要がある。

本書では、大正新教育の実践／思想史を試みるための橋頭堡として、国際新教育運動と大正新教育のつながりをふまえつつ、当時ヨーロッパやアメリカで新たに生みだされた新教育思想がどのように日本に「教育情報」として入り込み、実践現場に影響を与えていったのかを明らかにする。情報と関わりながら実践改造を志した教師たちの葛藤とその克服の過程を明らかにするために、私たちは「受容史」の方法を採りたいと思う。

まえがき i

序章 新教育の受容史とは…………… 橋本美保 3

- 1 今なぜ大正新教育なのか 3
- 2 大正新教育の興隆とその時代 5
- 3 「新教育」の受容と展開 6
- 4 大正新教育研究の課題 8
- 5 受容史という方法 9

第1部 欧米新教育情報と日本の教育界 13

第1章 モンテッソーリ教育情報の普及…………… 永井優美 14

- 1 はじめに 14
- 2 モンテッソーリ教育情報の伝播 15
- 3 外国教育情報紹介の特質 22

4	モンテッソーリ教育批判の実相	26
5	おわりに	31

第2章 ゲーリー・プラン情報の普及…………… 角谷亮太郎・塚原健太 38

1	はじめに	38
2	ゲーリー・プランへの注目	42
3	雑誌での紹介とその動向	47
4	記事内容にみる着眼点	52
5	結び——ゲーリー・プラン情報普及の特徴	56

第3章 ドクローリ教育情報の普及…………… 橋本美保 61

1	はじめに——問題関心と本章の目的	61
2	ドクローリ教育法への注目	62
3	雑誌での紹介とその動向	69
4	記事の内容とその特徴	73
5	結び——ドクローリ教育情報普及の特色	85

第4章	プロジェクト・メソッド情報の普及……………	遠座知恵	92
-----	-----------------------	------	----

1	はじめに	92
2	プロジェクト・メソッドへの注目	93
3	雑誌での紹介と教育界の反応	103
4	記事の内容とその特徴	111
5	おわりに	118

第5章	ドルトン・プラン情報の普及……………	遠座知恵・角谷亮太郎	125
-----	--------------------	------------	-----

1	はじめに	125
2	ドルトン・プランへの注目	126
3	雑誌記事数にみる関心の推移	129
4	講演録にみる情報普及の特質	137
5	おわりに	157

第6章	ウイネットカ・プラン情報の普及……………	宮野尚	164
-----	----------------------	-----	-----

1	はじめに	164
2	ウイネットカ・プランへの注目	165

3	研究動向と時期区分	173
4	ウオシユバーンの言説への着目とその意義	182
5	おわりに——ウイネットカ・プラン情報普及の特徴	187

第2部 国際的視点からのアプローチの可能性 193

第7章 北澤種一によるデモクラシー概念の受容

1	はじめに	194	——共通主義の基底としての興味——	遠座知恵	194
2	デモクラシー理解の特質	196			
3	欧米視察後の実践課題——学級経営論の提唱	202			
4	作業教育の思想基盤	210			
5	おわりに	212			

第8章 甲賀ふじによる進歩主義保育実践の受容

1	はじめに	220	——保育法研究のプロセスに着目して——	永井優美	220
2	シカゴ大学留学以前の教育・研究活動	221			

3	第二回留学の状況	225
4	豊明幼稚園における進歩主義保育実践	229
5	その後の展開	235
6	おわりに	237
第9章 大正新教育におけるサティス・コールマン「創造的音楽」の受容		
——受容主体による理解を中心に——		
1	はじめに	243
2	「創造的音楽」の紹介経路・翻訳の状況	246
3	受容主体による「創造的音楽」の理解と実践への影響	253
4	結び	261
第10章 明石女子師範学校附属小学校におけるドクローリ教育法の受容		
——及川平治によるドクローリ理解とカリキュラム開発——		
1	はじめに	267
2	及川平治の欧米視察によるドクローリ教育法の情報収集	268
3	帰国後の及川にみるドクローリ教育法の受容	270
4	西口槌太郎の実践にみるドクローリ教育法の影響	279
橋本美保		

5 結び 284

第11章 大正新教育の実践に与えたドクロリー教育法の影響

——「興味を中心」理論の受容を中心に——……………遠座知恵・橋本美保

289

1 はじめに——問題意識と研究の意図 289

2 日本におけるドクロリー教育法の導入 290

3 東京女高師附小の全体教育にみるドクロリー教育法の影響 294

4 明石附小の生活単元開発にみるドクロリー教育法の影響 300

5 おわりに 306

結 章 実践家の思想を捉えるパースペクティヴ……………橋本美保

312

あとがき 320

初出一覧 323

写真出典一覧 324

人名索引

329

事項索引

334

執筆者紹介

336

大正新教育の受容史

Taisho New Education in the International New Education Movement

永井優美（ながい ゆみ）（第1・8章）

1985年 石川県生まれ

2013年 東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科（博士課程）修了

日本学術振興会特別研究員（DC）、同（PD）を経て

現職：東京成徳短期大学幼児教育科准教授、博士（教育学）東京学芸大学

主要業績：『近代日本保育者養成史の研究——キリスト教系保姆養成機関を中心に——』（風間書房 2016）

「樋口長市の自学主義教育論」（分担執筆、橋本美保・田中智志編著『大正新教育の思想——生命の躍動』東信堂 2015）

「明治期広島女学校附属幼稚園の保育カリキュラム開発——中心統合法の導入と展開を中心に——」（『カリキュラム研究』第24号 2015）

橋本美保（はしもと みほ）（編著者、序章・第3・10・11・結章）**宮野 尚**（みやの ひさし）（第6章）

1991年 千葉県生まれ

2016年 東京学芸大学大学院教育学研究科修了

東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科（博士課程）入学（在学中）

現在：日本学術振興会特別研究員（DC）

主要業績：「1920年代におけるウィネットカ・システムのカリキュラム開発——小学校アドヴァイザー F. プレスラーの活動に着目して——」（『カリキュラム研究』第25号 2016）

「C. W. ウォッシュバーンにおける集団的創造的活動の思想形成——ヨーロッパ新教育の影響を中心に——」（『東京学芸大学紀要』第68集 2017）

執筆紹介 (50 音順)

遠座知恵 (えんざ ちえ) (第 4・5・7・11 章)

1976 年 群馬県生まれ
 2007 年 筑波大学大学院人間総合科学研究科単位取得満期退学
 日本学術振興会特別研究員 (PD)
 2010 年 東京学芸大学教育学部専任講師を経て
 現職：東京学芸大学教育学部准教授、博士 (教育学) 東京学芸大学
 主要業績：『近代日本におけるプロジェクト・メソッドの受容』(風間書房
 2013)
 「北澤種一によるドクローリー教育法の受容」(分担執筆、橋本美保・田中
 智志 編著『大正新教育の思想——生命の躍動』東信堂 2015)
 「北澤種一によるデモクラシー概念の受容——共通主義の基底としての
 興味——」(『教育学研究』第 84 巻第 1 号 2017)

角谷亮太郎 (すみや りょうたろう) (第 2・5 章)

1990 年 静岡県生まれ
 2017 年 東京学芸大学大学院教育学研究科修了
 現在：東京学芸大学大学院研究生
 主要業績：「富山県師範学校附属小学校における新教育研究による学校改革
 ——ドルトン・プランとホーム組織の研究を中心に——」(東京学芸大
 学修士論文
 2017)

塚原健太 (つかはら けんた) (第 2・9 章)

1984 年 東京都生まれ
 2008 年 洗足学園音楽大学大学院音楽研究科修士課程修了
 2013 年 東京学芸大学大学院連合学校教育研究科 (博士課程) 入学 (在学中)
 2014 年 日本学術振興会特別研究員 (DC)
 東京学芸大学非常勤講師などを経て
 現職：帝京大学理工学部専任講師
 主要業績：「北村久雄の「音楽的美的直観」概念」(分担執筆、橋本美保・田中
 智志編著『大正新教育の思想——生命の躍動』東信堂 2015)
 「北村久雄の「音楽生活の指導」の特質——カリキュラム論の視点からの検
 討を通して——」(『音楽教育学』第 46 巻第 1 号 2016)
 「東京女子高等師範学校附属小学校における「作業科」の特質」(『日本の教
 育史学』第 59 集 2016)

編著者

橋本美保 (はしもと みほ)

1963年 広島県生まれ

1990年 日本学術振興会特別研究員 (DC)

広島大学大学院教育学研究科博士課程後期中途退学

東京学芸大学教育学部専任講師、助教授、准教授を経て

現職：東京学芸大学教育学部教授、博士 (教育学) 広島大学

著書：『明治初期におけるアメリカ教育情報受容の研究』(風間書房 1998)

『教職用語辞典』(共編著、一藝社 2008)

『新しい時代の教育方法』(共著、有斐閣 2012)

『プロジェクト活動——知と生を結ぶ学び』(共著、東京大学出版会 2012)

『教育の理念・歴史』(共編著、一藝社 2013)

『大正新教育の思想——生命の躍動』(共編著、東信堂 2015)

『教育から見る日本の社会と歴史』第2版 (共著、八千代出版 2017)

『文献資料集成 大正新教育』(監修、解説執筆、日本図書センター 2016～2017) など

大正新教育の受容史

2018年1月10日 初版第1刷発行

[検印省略]

定価はカバーに表示してあります。

編著者©橋本美保／発行者 下田勝司

印刷・製本／中央精版印刷

東京都文京区向丘1-20-6 郵便振替00110-6-37828

発行所

〒113-0023 TEL (03)3818-5521 FAX (03)3818-5514

東信堂

Published by TOSHINDO PUBLISHING CO., LTD.

1-20-6, Mukougaoka, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-0023, Japan

E-mail : tk203444@fsinet.or.jp http://www.toshindo-pub.com

ISBN978-4-7989-1457-1 C3037 © M. Hashimoto